

特定鳥獣(カワウ)の保護及び管理に係る研修会

研修資料

この研修資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Web での掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

令和4年度カワウの保護・管理に関する研修会

対 象： 都道府県及び市町村の鳥獣、水産等の関係行政のカワウ担当者

開 催 日： 2022年6月13日(月)、6月20日(月)

場 所： オンライン開催

講師と科目： 基礎編講義

環境省鳥獣保護管理室(鳥獣保護管理の法制度等)

水産庁栽培養殖課(カワウ被害対策の進め方と水産庁事業について)

加藤ななえ(カワウの生態とモニタリング調査)

高木憲太郎(カワウの生息状況と季節移動)

応用編講義

坪井潤一(ねぐら・コロニーの分布管理と繁殖抑制)

須藤明子(個体数調整をすべき状況 その判断と実際)

山本麻希(鵜的フェーズと管理計画の作成)

令和3年度 カワウの保護・管理に関する研修会
応用編
2022年6月20日

個体数調整をすべき状況 その判断と実際

須藤明子 獣医師・博士（獣医学）
株式会社イーグレット・オフィス

1

個体数調整をすべき状況 その判断と実際

1. 個体数調整の役割
2. 個体数調整の成功実例
3. 個体数調整の失敗実例
4. 個体数調整において重要なこと



©Akiko SUDO

2

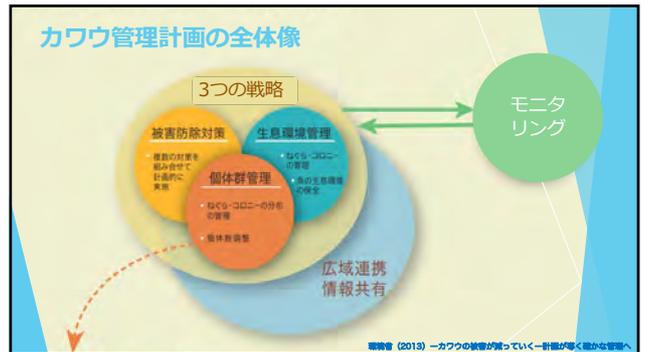
個体数調整をすべき状況 その判断と実際

1. 個体数調整の役割
2. 個体数調整の成功実例
3. 個体数調整の失敗実例
4. 個体数調整において重要なこと

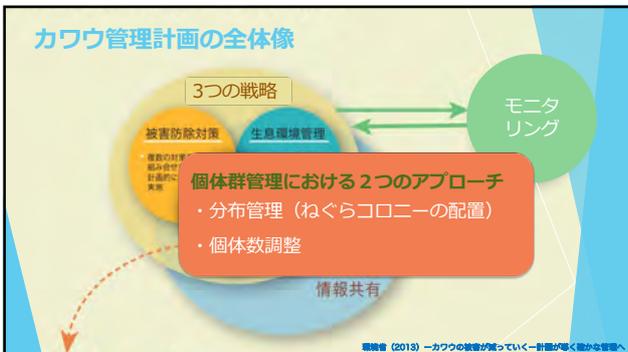


©Akiko SUDO

3



4



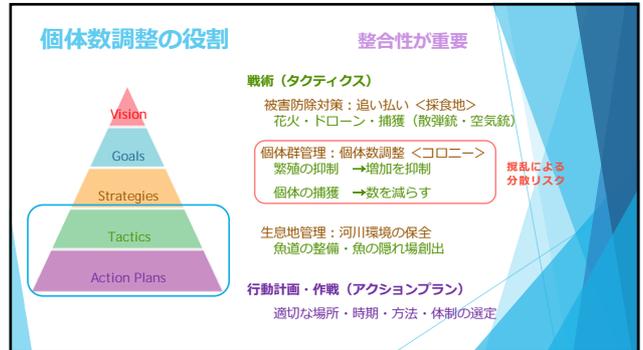
5



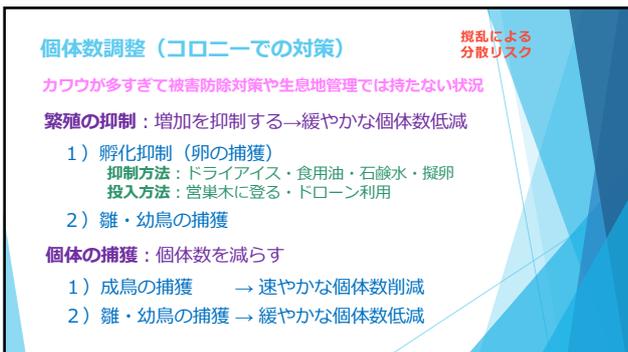
6



7



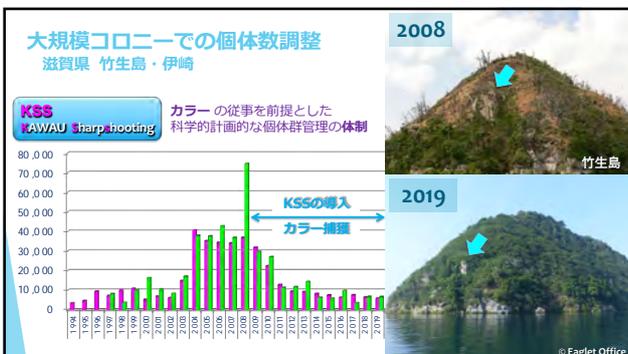
8



9



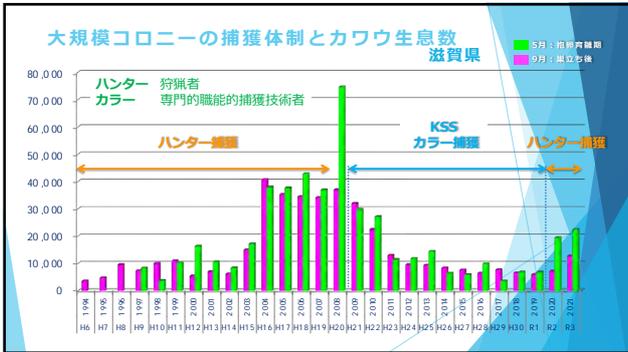
10



11



12



13

個体数調整をすべき状況 その判断と実際

1. 個体数調整の役割
2. 個体数調整の成功実例
3. 個体数調整の失敗実例
4. 個体数調整において重要なこと

©Akiko SUDO

14

ハンター捕獲による失敗

実例 1
公園の池のコロニー
コロニーが被害地に近づいてしまった

実例 2
ダム湖のコロニー
コロニーが増えてしまった

- 野外では他にも多くの要因が存在し複合的な影響と考えられる
- 不適切な捕獲がコロニーを変化させた主要な要因と推察される

15

実例 1 公園の池のコロニー

捕獲前の状況

- ▶ 県が専門家に計画作成と見積を依頼
- ▶ KSS体制 (カラー) による捕獲計画の提示

↓ 計画と手法のみ採用

捕獲体制と方法

- ▶ 捕獲体制：市町村による有害駆除
- ▶ 捕獲方法：空気銃捕獲 (地元ハンター)
- ▶ 捕獲結果：少数の捕獲

捕獲後の変化

- ・ 被害地に近い溜め池にコロニーが移動
- ⇒ 被害の深刻化

16

実例 2 ダム湖のコロニー

良かったこと
県担当者の努力により
関係者間の情報共有が進んだ

捕獲前にわかっていなかったこと

- ▶ カワウはダム湖 (漁業権なし) で主に採食していることがわかっていなかった
- ▶ 専門家の助言：個体数調整をすべき状況でもすべき場所でもない
- ：コロニー分散のリスクが高い
- ：捕獲するなら専門的な知識と技術が必須 (ハンターでなくカラー)
- ：胃内容調査が目的なら糞採集 (DNA解析) がよい

POINT
射撃が上手なだけでは
適切な個体数調整のための
捕獲はできない

研究機関による糞DNA解析
主にダム湖にいる魚種を
採食していることを確認

捕獲方法と結果

- ▶ 捕獲目的：胃内容調査
- ▶ 捕獲方法：空気銃捕獲 (カラーではない)
- ▶ 捕獲結果：回収数ゼロ (目的不達成)

捕獲後の変化

- ▶ 捕獲したコロニーは翌日にカワウがいなくなった
- ▶ コロニーが2から7に増えた → 調査労力の増大

17

繁殖の調整が重要

- 繁殖開始時期が地域によって年によって異なる
- 五月雨式に繁殖する

↓

繁殖ステージの混在

管理目標によって
捕獲最適ステージは異なる

ヒナ12日
ヒナ15日
抱卵
産卵
ヒナ10日
産卵
ヒナ10日
ヒナ15日
抱卵
産卵

竹生島

© Enplet Office

18

成鳥の捕獲が重要

捕獲数のみの評価
5 < 14

質も評価
成鳥 5 > 雛 14

数秒以内の判別が必要

成鳥 5羽
雛 14羽

竹生島

19

雛 幼鳥 成鳥

個体数の倍減効果

小 大
卵 雛 幼鳥 若鳥 成鳥

20

カワウの発見が重要

全て発見して撃つ順番を考える

© Eaglet Office

21

SS≠空気銃捕獲

ミミヒメウ（五大湖）の個体数調整：成功例
小口径ライフル

攪乱影響は装薬銃と同じ
発砲音
空気銃 > 散弾銃
ゾーニング効果
空気銃 > 散弾銃

カワウは冷静に繁殖成功度や採食地との距離等を判断材料にしている

空気銃 カワウ個体数調整

ライフル シカ頭部狙撃

シカ 165m

22

高度な射撃技術 必須条件

ファーストクロス 弾道 セカンドクロス

23

対策の競合

鳥獣捕獲許可のないケースが散見される
生き物についての基礎知識が全くない分野からの参画が増えると予想される → 要対策
＜岐阜県の先駆的な取り組み：ドローン研究会＞

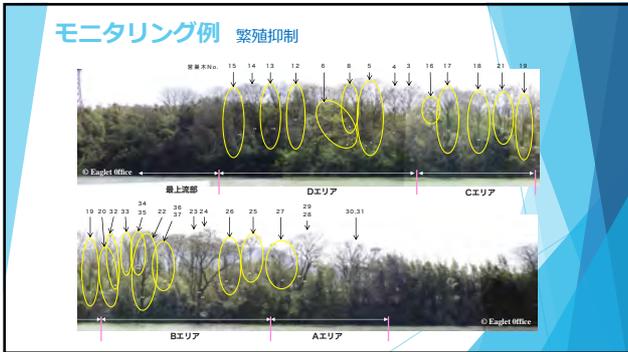
事例 3
個体数調整捕獲を予定しているコロニーで直前にドローンによる繁殖抑制の実証事業（年度未）に実施 ⇒ モニタリングなし

事例 4
ドライアイスによる繁殖抑制作業を実施中のコロニーで作業中にドローンによる親鳥追い出し（繁殖抑制）

事例 5
テープ張り等によるゾーニングを計画中のコロニーで営巣許容エリアでのドローンによる親鳥追い出し（繁殖抑制）

山梨での成功例 “肝”は坪井さんによるカワウドライブ

24



25



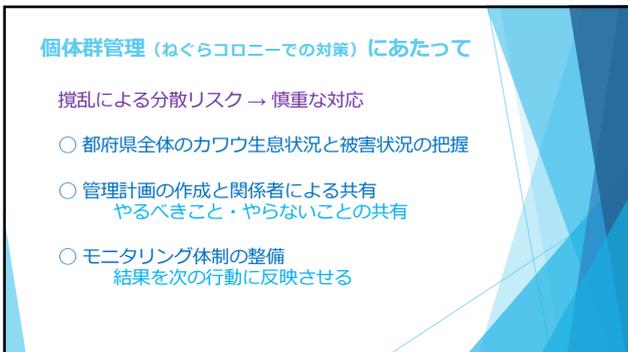
26



27



28



29



30



31



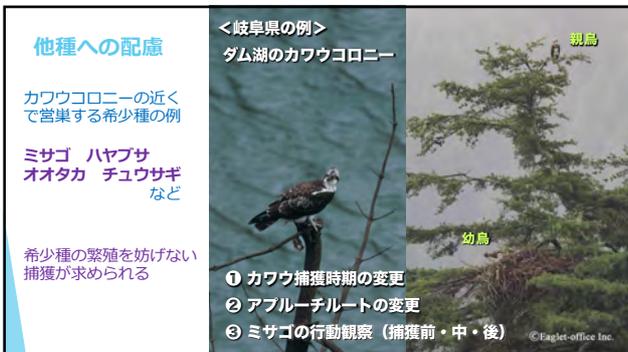
32



33



34



35



36

